

サンゴの一生とは？

1

多くのサンゴの仲間が年に一度、初夏～夏時期にかけての夜間に放卵放精（産卵）します。10 個程度の卵と 100 万以上の精子が詰まったバンドルと呼ばれるピンク色のカプセルは、油分を多く含むため水面へゆっくりと浮上していき、水面ではじけて他のサンゴの卵と精子と交じり合い受精します。

2

受精した卵は数日で赤ちゃん（プラナラ幼生）となり、波の流れによって広がっていきます。うまく住む場所にたどり着いたプラナラ幼生は形を変えて、イソギンチャクのような形のポリプになります。

サンゴの一生

初夏の夜に卵と精子を放出。

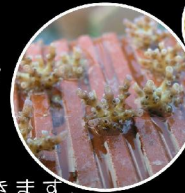


ポリプが分裂して大きく成長していきます。

体の周りの細かい毛で移動して適した場所を探します。



プラナラ幼生



海底につくと形が変わっていきます。

4

成長の早いサンゴの仲間では、1年後に約 3cm のサイズに育ちます。サンゴは周りの環境が変わってしまうことで（高水温、富栄養化、赤土流出、人為破壊など）弱って死んでしまうことがあります。（サンゴは一度住む場所が決まると、そこから移動ができません。）無事に成長すると約 4 年で産卵できる大人のサイズに成長し、また新たな命を育てていきます。

3

サンゴの体内に褐虫藻という 100 分の 1mm ほどの大きさの植物プランクトンが住み込みはじめ、太陽光で光合成をしてエネルギーを生み出します。サンゴはそのエネルギーを分けてもらって、ポリプの分裂と骨格形成を繰り返し成長していきます。

サンゴのぼうけん

スタート!

初夏の夜に
たまごが産まれる

沖縄では5~6月ごろ、大潮の頃に
見られることが多いよ。

必ず止まる

精子と卵子が会う
1, 2, 3→1すすむ
4, 5, 6→2もどる

魚に食べられる
スタートにもどる

1匹の大きさは
1mmしかないよ

赤ちゃん
(プラナラ)に
なって泳ぎだす
1すすむ

かっちゅうそう
褐虫藻が
やってきた
2すすむ

小さな植物プランクトン。
サンゴの中で光を
あびて栄養をつくるよ。

体の中に
骨が出来た
1すすむ

うまれて1週間程で
岩にくっつくよ。

魚に食べられる
スタートにもどる

すむところを
見つけて
ポリプになる
1すすむ

光が届かなくて
成長できない
1回休み

光をたくさん
浴びてポリプが
どんどん増える
3すすむ

海があつくて
白化する
1回休み

枝が伸びて
木のような
形になる
1すすむ

すみにくくなると
褐虫藻がにげていくよ。

台風のおかげで
海がすずしくなる
2すすむ

人間にふまれる
3もどる

1年で3cm
まで成長した
2すすむ

オニヒトデに
食べられる
2もどる

赤土に埋もれる
スタートに
もどる

海が
キレイになる
3すすむ

ゴール!

大人になって
たまごを産む

水族館では3~4才で
産卵が見られるよ。